

英語

I

■出題のねらい

日常的な場面（飲食街に出かける前の友人同士による相談）についての会話の内容を正確に理解する問題です。単語や構文はきわめて基礎的なレベルなので、落ち着いて会話内の情報を的確にとらえましょう。Tyler と Sharon が出かけようとしている飲食街にはどのような特徴があるのか、提供されている食事はどこの国のどのようなものか、二人それぞれの好みは何か、結局二人はどのコーナーに立ち寄る予定にしたのかなど、二人の発言の特徴的な要素を的確にとらえて整理することで、正答率はアップします。

■採点講評

どの設問も正答率は5割以上で、特に は8割を超えています。残りの については、不正解の選択肢3つの中でマークされたものはある程度集中しており、 は④、 も④、 は③を3割強の受験生が選択しています。いずれも間違えやすい選択肢ですが、会話の表面的な意味だけでなく、発言が持つ含意などを厳密に理解することによって、正しい選択肢が選べる可能性は高くなります。

II

■出題のねらい

案内ポスターの形式で書かれた英文の内容（ある大学が新たに設置した学生用学習スペースの紹介）を正確に理解する問題です。これまでの学生用施設（Student Union）の特徴は何か、そこでは何が問題になったのか、そのために新たに設置された Study Lounge の機能や使用方法は何か、予約方法はどのようなものか、どのような使用上の注意が存在するのかなど、内容はすべてセクションに分割され、項目ごとにまとまっているので、一つ一つ集中して読み解きましょう。語彙や構文は、一見難しく見えるものも混ざっていますが、基本的にはすべてキャンパス生活用語なので比較的容易に類推できます。

■採点講評

を除いて、5割以上の正答率でした。特に、設置された自動販売機では現金が使用できないことを根拠に解答する と、条件に合うスナック類であれば持ち込みが可能であることを根拠に解答する は、いずれも7割近い正答率でした。逆に は、4割近い受験生が③を選んで不正解でした。選択肢の文中にはポスター文面と同じ“social interactions”という語句が使用されており、それに誘われて選んでしまったのかもしれませんが、 についても同様で、ポスター文面にある“ID cards”という語句が含まれる選択肢③を選

び不正解となった割合は、3割近くに上ります。単に使用語句が同じという根拠でマークするのではなく、本文と選択肢の両方の文面を吟味して答えるように心がけましょう。

III

■出題のねらい

グラフを参照しつつ英文を読み、ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。宅配便の配達効率化が要請されている近年の社会的状況を把握し、大手3企業の方策と連携について読み進めましょう。宅配業界では、ネット販売の成長による配達する荷物の増加傾向と、再配達というサービスの必要性、この業界の人手不足などが背景となり、宅配ロッカーをライバル3社で共同利用するという特殊な状況が生じています。英語の知識だけでなく、こうした一般的な知識もできるだけ活用することが求められます。

■採点講評

設問によってかなり正答率が異なる問題でした。グラフから数値を読み取る [13] は確実に正答したい設問で、期待通りに8割以上の受験生が正答しています。[12] [14] は逆に、3人に2人が不正解でした。[12] は選択肢①②③に何らかの数値が含まれており、本文中でその数値が出現する部分を正確に読み解くと、どれも不正解であることが理解できるはずですが、[14] では、宅配を担う労働者が不足しているという本文最終段落の文脈を前提に解答すれば、求職者の人数が募集件数よりも多い選択肢④が矛盾していることは明白です。

IV

■出題のねらい

近年全国のパン屋で導入が進んでいる、パン画像識別システムに関する話題です。本文に登場する英単語の難易度は全体的にそれほど高くはないですが、(1) (2) (3) など、英語の知識に加え、文脈を理解しなければ答えられない問題が多く含まれます。後半の問題についても、下線部周辺の情報を細かい部分まで正確に読み解く力が求められます。(5) の和訳をはじめ、選択肢の「正答らしさ」に惑わされずに、しっかりと本文を読みましょう。

■採点講評

英文の内容をおおむね理解できている受験生が多かったようです。半数以上が50%以上の正答率でした。[16] ~ [18] の空所に入る語句を選択する設問は、いずれも6割前後の正答率でした。一方、正答率が5割を切る設問は [19] [21] [26] の3つです。[19] は、下線部内の“coverage”の意味が理解できない受験生が少なからず存在したと思いますが、同じく

下線部内の“news”という語に注目して選択肢を消去法で選別すると、①③④は不正解であると判断できます。□21□は、年号が含まれる英文やその前後を集中的に読解することで、プロ野球の結果や株式市場の動向が表示されるシステムをある放送局が採用したという正しい選択肢③にたどり着きます。□26□は、いわゆる「AIによる画像診断」について、この会社が現在取り組んでいる内容を正確に把握する設問です。最も選択率が高い選択肢は③で、4割を超えています。しかし、本文中の“prospect”はあくまで「将来的な可能性」であり、現時点では選択肢③のように「人間よりも速く腫瘍を発見することができるようになった」わけではないので、不正解です。

V

■出題のねらい

日本の文化を社会啓発の取り組みに利用しようという試みを取り上げた英文です。(1)の並べかえ問題はto不定詞の用法とin+a+形容詞+wayの表現の構文の理解を問うもの、if節の理解を問うもの、“many of”および“those who”の表現の理解を問うものです。(2)は本文の内容についてのパラフレーズを含む英文を読んだ上で、正しく事実関係を理解できているかどうかを確認しました。

■採点講評

□27□は正答率が40%台で、□28□ □29□については50%強でした。最も正答率が低い□28□は、選択肢の中に前置詞が3つもあるので、それぞれの使用位置の特定が難しかったのかもしれませんが、□28□は“if”の位置の特定、また□29□については“of those who”というつながりを正確に把握することが、正答を得る重要な鍵になります。